

## 田植が大幅に遅れる場合の育苗等の留意点について

【台風第 19 号関係 大河原農業改良普及センター情報 第 7 報】

台風 19 号により被害を受けた農地については、現在、復旧工事が進められている。  
水稲の作付が可能となる予定のほ場でも、通常の移植時期より、田植作業が大幅に遅れる  
ことが予想される。

そのため、以下の点に留意しながら、水稲作業を進める。

### 1 水田や施設等の被害及び用排水機能の確認について

- ・ほ場及び水利施設の被害や復旧予定について、土地改良区等、関係機関と連携しながら確認すること
- ・用水が確保でき「田植えができる時期を確認」してから浸種・播種作業を行う。

(参考)作業期の晩限の目安

○移植：5 月末頃， ○播種：5 月 15 日頃， ○浸種 5 月 6 日頃

(平坦部：ひとめぼれ，ササニシキ等の中生品種：稚苗の場合)

### 2 田植えの遅延に対する種籾の処理について

- ・まだ浸種を開始していない場合は、処理を見合わせる。
- ・浸種の目安は積算水温で 100℃ (ひとめぼれ 120℃) 水温 10℃×10 日間=100℃である。
- ・田植え時期を考慮せずに浸種を始めると、芽が動き、播種を早める必要が生じるため、浸種の処理は、田植え時期を考慮して始める。

### 3 移植時期別の育苗日数

- ・稚苗の標準育苗日数は 20 日～25 日となっているが、これは 5 月上旬の移植を想定した場合である。
- ・5 月 20 日頃の移植を目標とした育苗時期の気温は、5 月上旬と比較して 4℃前後高いため、生育は早まる。
- ・5 月 20 日頃に稚苗移植を行う場合の日数の目安は加温出芽で 16 日前後となる。
- ・温度が高いことから、苗を焼かないよう、高温に対応した被覆資材の活用や温度管理に特に注意し管理を行う。

○参考 普及に移す技術 79 号より：移植時期別育苗日数の目安 (稚苗，加温出芽)

移植期	必要育苗日数	播種期
5 月 15 日	16～17 日間	4 月 28 日前後
5 月 20 日	15～16 日間	5 月 4 日前後
5 月 25 日	14～15 日間	5 月 10 日前後

#### 4 田植の晩限について（ひとめぼれ，ササニシキ等 中生品種：稚苗）

- ・ 収量・品質等を考慮した出穂期の晩限は，アメダスデータの平均気温積算から見ると，8月25日頃となる。（白石，丸森とも）
- ・ 安全な出穂期を迎えるための移植晩限は5月末頃である。（中苗，成苗の場合は6月5日頃）
- ・ 田植が遅くなった場合，茎数の不足が懸念されるため，株数を多くする（70株/坪）など，有効茎数の確保に努める。

#### 5 「土づくり」と「肥培管理」について

##### （1）土づくり肥料の施用

- ・ 土づくり肥料の施用量は，土壌中に含まれる養分量，供給される量（かんがい水，たい肥等）から排出される量（暗きょ排水，作物が持ち出す量）の差し引きが基本となる。
- ・ 特に，稲わらの流出等により「すき込みができなかったほ場」は，その分を考慮した土づくり肥料を施用する。

※例：カリ補給に「塩化カリ（カリ成分60%）」施用の場合（現物量）

稲わらをすき込んだほ場：5～10kg/10a，稲わらを持ち出したほ場：25kg/10a

- ・ 土砂が流入・流出したほ場については，「カリ」を施用する。

##### （2）肥培管理の留意点

###### ①ほ場整備等によりほ場内の土壌に移動等があった場合

- ・ 土が移動するため，切土，盛土による地力差等で生育，収量，品質等の変動が生じやすく，倒伏やいもち病等の多発事例もみられる。
- ・ そのため，「基肥窒素」は通常の半量程度に減肥し，「リン酸」と「カリ」は通常どおり施用する。
- ・ 生育量や葉色に注意し必要に応じて生育に応じて追肥を行う。

###### ②「稲わら」の流入等により，通常年より稲わらのすき込み量多かった場合

- ・ すき込んだ稲わらや籾・玄米の量に応じて基肥窒素量を減らし，追肥や早めの中干し等で調整する。

###### ③「稲わら」の流出により，すき込みができなかった場合

- ・ 土づくり肥料の施用を行い，基肥は，通常どおり施用する。

##### （参考）すでに浸種を開始した場合の対応について

- ・ 浸種を始めて数日以内であれば，脱水機により脱水し，ゴザ等に広げ2日程度陰干しする。その後網袋に入れ風通しの良い日陰で保存する。（ただし，種籾は完全には乾燥させないこと）
- ・ 1週間以上浸種した場合は出来るだけ冷たい水（0～5℃）に浸けて，こまめに水を交換しながら保存するか（一週間程度有効），種籾の水を軽く切りビニール袋に入れて冷蔵後で保管する。（2週間程度）※芽が動き始めた籾は乾燥後の発芽率が低下する。（特に1mm以上になるとかなり低下）
- ・ 再浸種後は芽が動き易くなっているので，籾の状況を見ながら浸種期間を調整する。